

[1] 子どもの権利条約の推進及び、子どもの諸活動に関する支援事業

●ふくいチャイルドライン事業

18才までの子どもがかける子ども専用電話「ふくいチャイルドライン」は16時～21時、毎週月曜日の福井ラインと第2第4水曜日の奥越ラインで行っています。しかし、2020年度は新型コロナ感染による緊急事態宣言発令に伴い、4月から5月末までの期間、活動を休止しました。そのため年間開設日数は52日、着信件数は1,643件となりました。このうち、会話成立の電話は437件でした。1日あたりでは、着信数は31.6件、会話成立件数は13.8件でした。6月からの活動再開後も、感染防止対策として、受け手は2人とし、実施時間も短縮しました。そのため、例年と比べると着信件数が減っていますが、1日あたりの会話成立件数は1.7倍に増えています。先行きが見えない状況の中で、つながりたい、話したいという子どもたちの思いが現れた数字と言えます。受け手継続研修会は5回開催しました。オンラインを活用し、自分を知るワークショップやディスカッションを行いました。今年度も教育委員会の協力を得て県内の小中学生にカードを57,000枚配布しました。また子どもの声を聞く受け手を増やすため、受け手ボランティア養成講座をオンラインで2日間開催しました。マイノリティや子どもの見方、療育と障害についてなど、子どもに関する講演に加え、子どもの声を聞くという受け手活動の基本姿勢について学んでもらいました。

●みんなのあそび事業

自然体験活動では小学生を対象に秋や冬の森で散策を楽しみました。

●木田児童クラブサポート事業

木田児童クラブ・第2木田児童クラブ運営委員会の委託を受け、行事企画に関するサポート、支援員の教育に関するサポート、保護者へのサポート及び苦情に関すること、この3つの柱を基本に運営業務をサポートしました

[2] 子どもと文化に関する交流、サポート及び人材育成事業

●表現ひろば事業

表現ひろばは、表現やコミュニケーションを伝える事業です。木田児童クラブで1回、適応指導教室で2回コミュニケーションワークショップを行いました。

●大人が学びあう講座事業

子どもが豊かに育つ社会を目指して、一歩踏み出す大人を増やしたいという思いから毎年子どもの問題を取り上げています。今年度は、「地域の中で育つということ」というテーマで2回にわたり開催しました。まちづくりと子どもの支援の専門家をお招きして、大人が子どもと関わる際に必要な視点や意識の持ち方、コロナ禍で見えてきた地域や居場所の変化、課題について学びあいました。

[3] 文化事業の企画、調査並びに文化事業に対する協力及び連携事業

●子どもと文化企画事業

毎年、県内小学校・幼稚園・社協・その他子育て関係団体に舞台や人形劇などを紹介していますが、今年度は当初予定していたほとんどの作品紹介公演が中止となってしまいました。2月に鯖江市社会福祉協議会にパントマイムを紹介しました。また民生委員協議会や福井市総合ボランティアセンターで理事長講演を行いました。委託事業では福井市児童クラブ連絡協議会事務局を担いました。

[4] 出版及び広報事業

広報誌「こどもChannel66号・67号」を各2500部発行しました。子どもNPOセンターの支援者、子ども関係団体、教育機関、公共施設などに送付しました。ホームページやツイッター、フェイスブックでも情報を発信しています。またリーフレットを2000部作成しました。センター概要とふくいチャイルドラインについて掲載されています。会員や子ども関係団体に送付、各事業の配布、公的施設への設置をし多くの方に寄付を呼び

かけました。

[5] 行政・各分野NPOとの連携およびネットワークづくり事業

●行政関連委員会

福井県福祉のまちづくり推進協議会（県障害福祉課）

福井県立美術館運営協議会

福井市行政改革推進委員会

地域福祉活動推進会議委員会

社会福祉法人 福井県共同募金会評議委員会